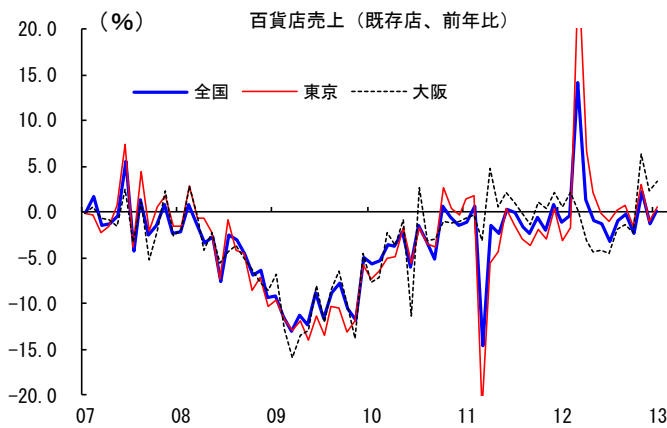


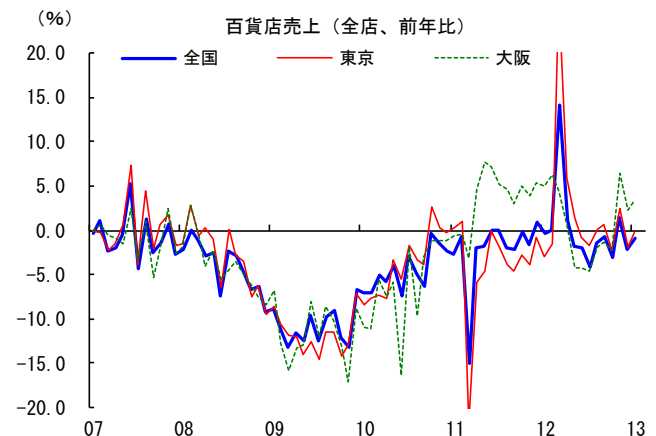
指標名:百貨店売上高(2013年1月)
～高額消費の好調が牽引～

発表日:2013年2月19日(火)

第一生命経済研究所 経済調査部
担当 エコノミスト 星野 卓也
TEL:03-5221-4526



(出所) 日本百貨店協会「全国百貨店地区別・商品別売上高」



(出所) 日本百貨店協会「全国百貨店地区別・商品別売上高」

○高額消費が牽引

1月の百貨店売上高(全国)は、前年比+0.2%(既存店ベース)と2ヶ月ぶりに前年を上回った。1月は関東地方で大雪となるなど、天候不順があった中での増加であり、良好な結果と判断して差し支えない。当社試算の季節調整値(全店ベース)をみても前月比+2.0%と増加しており、百貨店売上高には持ち直しの動きがみられる。

品目別にみると、身の回り品(前年比+3.6%)や雑貨(同+1.8%)が高い伸びとなった。特に、株高や消費者マインドの好転を背景に、美術・宝飾・貴金属は同+6.8%と大幅に増加した。一方で、衣料品は同▲1.5%と減少した。百貨店協会によれば、初売りや福袋商戦は活況を呈したものの、天候不順による客足の減少が響いたとのことだ。売上全体では、こうした天候不順の悪影響を高額消費などの好調が補う形で、前年を上回る結果となっている。

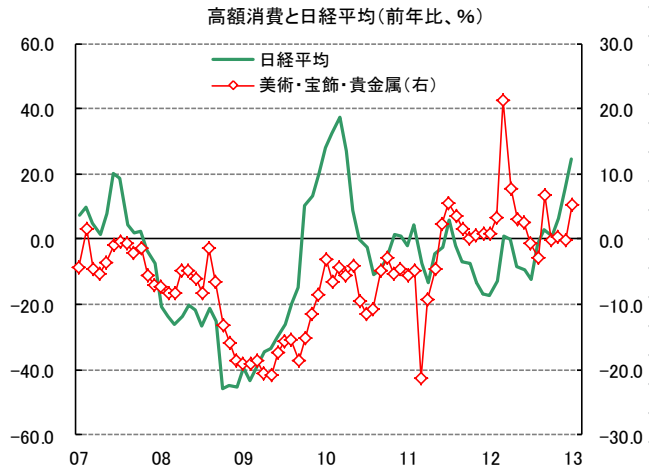
○マインドの改善を支えに、個人消費は緩やかながら持ち直す見込み

このように、1月の百貨店売上高は高額消費の増加などを背景に、良好な結果となった。

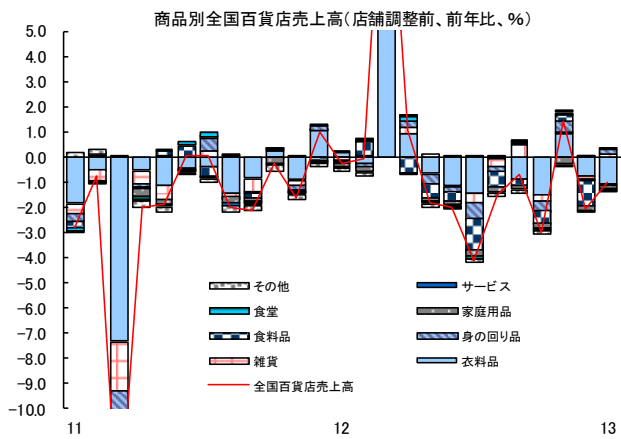
今後の個人消費に関しても、緩やかな回復が期待できよう。株高等を背景に、消費者マインドが改善に転じたことがその理由だ。雇用・所得環境の改善には時間がかかる公算が大きいものの、マインドの回復を背景とした高額消費などの増加が、消費を下支える要因となろう。自動車販売の回復も相俟って、先行きの個人消費は持ち直していく可能性が高いとみている。



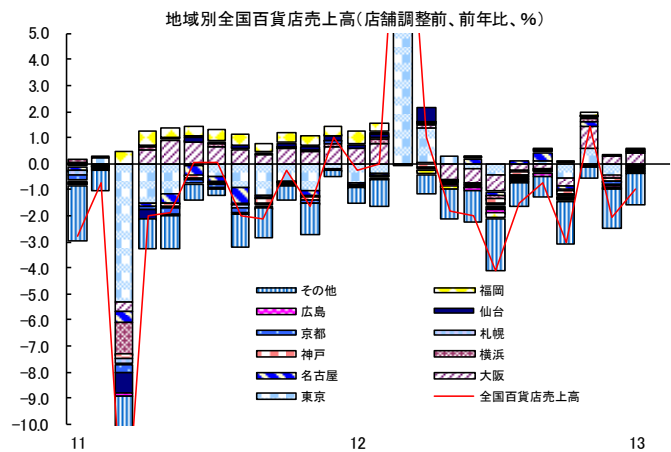
(出所) 日本百貨店協会「全国百貨店地区別・商品別売上高」
※季節調整は第一生命経済研究所



(出所) 日本百貨店協会「全国百貨店地区別・商品別売上高」、日本経済新聞社「日本経済新聞」
※美術・宝飾・貴金属は店舗調整前。



(出所) 日本百貨店協会「全国百貨店地区別・商品別売上高」



(出所) 日本百貨店協会「全国百貨店地区別・商品別売上高」